

小・中・高校期のすべての 競技者が大切な 「タレント」です

小・中学生の頃は発育発達の個人差が大きく、競技成績に影響している可能性があること(図1)、日本代表選手の約60%が中学生時代には全国大会に出場していないこと(表1)、多くの日本代表選手が競技種目を変えてきたこと(表2)がわかっています。

図1 全国大会出場者および代表選手の生まれ月分布

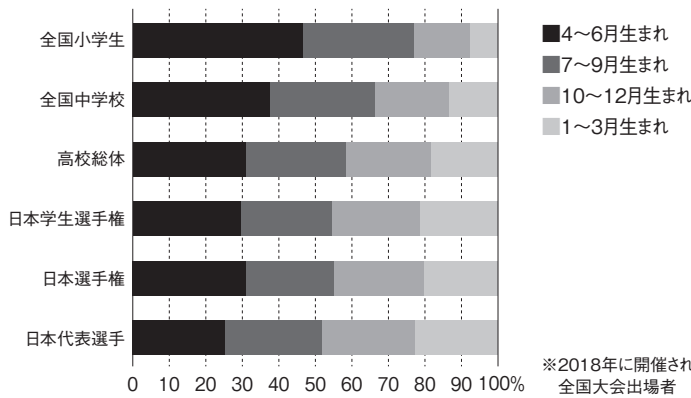


表1 日本代表選手の陸上競技実施率および競技レベル

	実施率	全国大会	
		出場	入賞以上
小学校期	16.3%	3.8%	1.9%
中学校期	79.8%	40.4%	20.2%
高校期	98.1%	79.8%	61.5%

実施率=複数競技実施者を含む

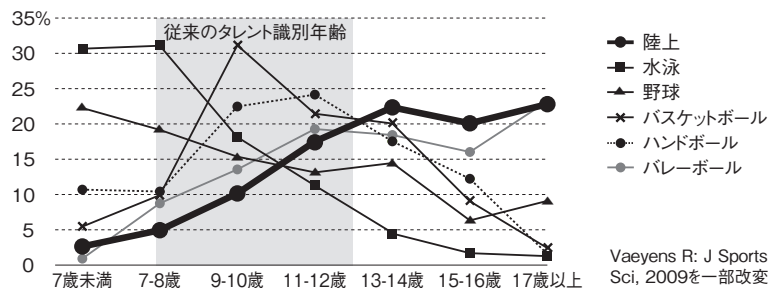
表2 日本代表選手の競技間・種目間トランスファー

	競技間	種目間
小学校期→中学校期	92%	-
中学校期→高校期	30%	55%
高校期→学生・実業団	2%	32%

競技間トランスファー: 他のスポーツから陸上競技へ変更すること
種目間トランスファー: 陸上競技内で種目を変更すること

陸上競技は専門化が遅い種目であり、小・中学生の頃に競技者としての将来性を判断するのは難しいと考えられています(図2)。競技成績の優劣にはこだわらず、様々な種目に挑戦する「楽しさ」を味わいながら、自分に合った種目を探していきましょう。

図2 2004年アテネオリンピック大会参加競技者の専門種目を開始した年齢



次の大会などの目標に向かって、チャレンジすることは大切です。しかし、目先の競技成績ばかりにこだわらず、多くの競技者に「陸上競技って楽しい!」と実感してもらえたら、それは素晴らしいことだと思うのです。

トップアスリートへの道は、長く続けること。そして、小・中・高校期のすべての競技者が大切な「タレント」です。私たちはそのように考え、多くの競技者に少しでも長く陸上競技を続けていただけるよう、これからも取り組んでいきます。

この資料は、日本陸上競技連盟が発行したリーフレットをもとに作成したものです。
日本陸上競技連盟のホームページにあるリーフレットも、ぜひご覧になってください。
<http://www.jaaf.or.jp/athleticclub/transferguide.pdf>

日本陸連 タレント 検索

Supported by
SPORTS LEGACY
TOKYO MARATHON FOUNDATION